

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	シャープユーセイP グレー
会社名	シャープ化学工業株式会社
住所	大阪府堺市西区築港浜寺西町 12-1
担当部門	品質保証部
電話番号	072-268-0321
制定・改訂	2022年4月21日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

分類できない	
--------	--

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／皮膚刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分に該当しない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	分類できない
標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分に該当しない
標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分に該当しない
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	区分3
水生環境有害性 長期（慢性）	区分3
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

【絵表示またはシンボル】

なし

【注意喚起語】

なし

【危険有害性情報】

長期継続的影響によって水生生物に有害

【注意書き】

《安全対策》

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

《応急措置》

火災の場合：消火するために粉末ドライケミカル、乾燥砂、二酸化炭素、泡消火剤を使用すること。

《保管（貯蔵）》

涼しいところに置くこと。

《廃棄》

内容物／容器を法令に従って適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混物の区分 混合物
 化学名又は一般名 1成分形油性系シーリング材

成分及び濃度又は濃度範囲

成分	CAS NO.	含有率 (%)	官報公示整理番号 (化審法)
ミネラルスピリット	64742-82-1	1-10	9-1702

4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。
 直ちに医師に連絡し、医師の手当、診断を受ける。
 呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類を緩め、呼吸気道を確保したうえで人工呼吸（又は、酸素吸入）を行う。

目に入った場合 直ちに清浄な多量の水で最低 15 分間洗い流した後、速やかに専門医の手当てを受ける。
 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。

皮膚に付着した場合 多量の水と石鹼でよく洗う。
 付着物を布にて拭き取る。
 外観に変化が見られたり、かゆみや炎症がある場合には専門医の手当て

飲み込んだ場合	<p>を受ける。</p> <p>水で口の中を良く洗い、医師の診察を受ける。</p> <p>無理に吐かせてはならない。</p> <p>被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。</p>
最も重要な兆候および症状	情報なし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

使用可能消火剤	粉末ドライケミカル、乾燥砂、二酸化炭素、泡消火剤
使用してはならない消火剤	情報なし
火災時特有の危険有害性	情報なし
特有の消火方法	<p>消火活動は可能な限り風上から行う。</p> <p>可燃性のものをすばやく周囲から取り除く。</p> <p>火災の現場に容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には十分に距離をとること。</p>
消火を行なう者の保護	消火者は必ず適切な保護具を着用し、空気呼吸器などを装備する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	<p>曝露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。</p> <p>付近の着火源、高温体および付近の可燃物をすばやく取除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。</p> <p>回収作業においては、火花を発生しない材質の用具を用いて回収する。</p>
環境に対する注意事項	<p>漏出液を下水や側溝等に流してはならない。</p> <p>少量漏出の場合にはウエス等に吸収させて回収する。</p> <p>大量漏出の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>危険でなければ漏れを止める。</p> <p>乾燥砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できるから容器に回収する。</p> <p>二次災害の防止策として、付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。

局所排気・全体換気

局所排気装置、全体排気装置のある換気の良い場所で行う。

注意事項

密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置をつけ適切な保護具を着用して作業する。

取扱い後は手洗い等を十分に行ない、衣服に付着した場合は着替える。

保管条件

幼児の手の届かない所に置くこと。

直射日光を避ける。

火気、熱源から遠ざける。

40℃以上になるところには置かないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

物質名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
ミネラルスピリット	未設定	未設定	TLV-TWA 100ppm

設備対策

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものを置かないような設備とすること。

密閉場所で作業する場合には、排気装置を取り付けること。

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講じること。

貯蔵ないし取り扱う作業場に洗顔器と安全シャワーを設置すること。

保護具

眼の保護

保護眼鏡を着用する。

皮膚の保護

有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

呼吸器系の保護

有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。

密閉された場所では送気マスクを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

	内容物	
物理状態	ペースト	

色	グレー	
臭い	植物油臭	
融点	データなし	
沸点	データなし	
可燃性	データなし	
爆発下限界及び爆発上限界	データなし	
引火点	>65°C	
自然発火点	データなし	
分解温度	データなし	
PH	データなし	
粘度（粘性率）	250～550Pa・s	
溶解度	水に難溶、有機溶剤に可溶	
ワタノール／水分配係数	データなし	
蒸気圧	データなし	
密度	1.23	
相対ガス密度	データなし	
粒子特性	データなし	
その他	データなし	

10. 安定性及び反応性

反応性	引火性である
化学的安定性	通常の手扱い条件では安定
危険有害反応可能性	引火性である
避けるべき条件	火気、熱源を避ける
危険有害な分解生成物	火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する
混触危険物	酸、強酸、塩基、強塩基

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	ミネラルスピリット	LD50 >15000mg/kg
急性毒性（経皮）	ミネラルスピリット	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	ミネラルスピリット	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	ミネラルスピリット	分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性	ミネラルスピリット	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ミネラルスピリット	区分に該当しない

呼吸器感作性または皮膚感作性	ミネラルスピリット	呼吸器感作性：分類できない 皮膚感作性：分類できない
生殖細胞変異原性	ミネラルスピリット	分類できない
発がん性	ミネラルスピリット	区分に該当しない
生殖毒性	ミネラルスピリット	分類できない
特定標的臓器/全身毒性（単回ばく露）	ミネラルスピリット	麻酔作用（区分3）
特定標的臓器/全身毒性（反復ばく露）	ミネラルスピリット	分類できない
誤えん有害性	ミネラルスピリット	区分1

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）	ミネラルスピリット	区分2
水生環境有害性 長期（慢性）	ミネラルスピリット	区分2
オゾン層への有害性	ミネラルスピリット	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 都道府県条例に基づく焼却処分か、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する
 汚染容器・包装 内容物を使い切ってから分別廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

陸上輸送 消防法、道路法等に定められている運送方法に従う。
 海上輸送 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
 航空輸送 航空法に定められている運送方法に従う。
 国連分類 該当しない
 国連番号 該当しない
 特別の安全対策 転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

15. 適用法令

消防法	指定可燃物（可燃性固体類）
労働安全衛生法	表示対象物質：ミネラルスピリット 通知対象物質：ミネラルスピリット 有機溶剤中毒予防規則：第三種有機溶剤
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない
化学物質管理促進法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない

16. その他の情報

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意してください。なお、記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。

ホルムアルデヒド放散量区分：（日本シーリング材工業会）室内空気汚染対策のための
自主管理規定

J S I A - 0 0 8 0 1 1 F☆☆☆☆